

イギリス留学レポート

2018年4月
観光経営学部3年
安達友理

<後期（最後の3ヶ月）について>

観光経営学部の安達友理です。オックスフォード大学ハートフォードカレッジでの留学を終え、2018年3月に日本へ帰国しました。昨年10月に大きな荷物を抱えてヒースロー空港に到着した日が、つい先週のように感じます。私にとってこのプログラムの後期は、前期に比べてよりチャレンジで充実した毎日でした。今回は、2つのテーマに分けて留学生活を紹介します。

1. 英語でビジネスを学ぶ

前期は英語の単語、文法、発音やイギリス文化、そしてアカデミックライティングなどを中心に学んでいました。後期はそこからステップアップし、ビジネスの分野を学びました。マネジメント、リーダーシップ、マーケティング、Brexit、人権などについて広く学ぶことができましたが、その中でも特に興味深かった授業は、オックスフォードにある、BMWのMINIを製造している工場の見学です。ガイドをしてくださった方の案内のもと、工場間を大型車で移動し歩きながらじっくりと見て回りました。ロボットが部品を組み立てていくところから、出来上がった自動車が走っていくところまで、ほとんどの工程を見学しました。製造されている車は全てお客様が注文されたもので、車の組み立てが始まった時から、1台1台にその車の所有者がいることに驚きました。さらに、今まで人間がしていた仕事をロボットが代わりにできるようになった現在、今後AIやロボットとどのように共存し、どの仕事は人間にしかできないのかを考えるきっかけにもなりました。



後期は楽しいことだけではなく、私にとって一番苦手であるエッセイも書かなければいけませんでした。週に1回の提出で、教育、リーダーシップ、マーケティング、環境問題などテーマは様々でしたが、初めて考える分野であったり私の単語不足だったり、毎回苦労しながら書いていました。しかし、何度も書くにつれて書くことに慣れ、コツを少しずつ掴み、最初に比べてエッセイを書くことを楽しめるようになりました。

私は、このプログラムの英語を学びさらに英語でビジネスも学べるという点に魅力を感じ、参加を決めました。英語で何かを勉強することはとても新鮮で、ディスカッションやライティングなど、考えて自分の意見を発言する機会が多く、毎日ワクワクしながら授業を受けることができました。帰国した後も、留学で学んだことを復習し、さらに新しいことを学んでいきたいです。

2. 日本について考える

私は、OUJS (Oxford University Japan Society) という、オックスフォード大学にある日本会に所属していました。そこではパーティーや日本語のレッスンなどがあり、地域の方々や在学学生、卒業生と交流する機会もありました。日本語のレッスンは毎週木曜日にあり、私はボランティアのアシスタントとして毎週参加していました。いくつかクラスがある中、初級者または上級者のクラスでお手伝いをしました。日本語の会話や文法などを、英語で説明しながら教えるのは難しく、日本語には不規則な部分もあり、教えることは大変でした。それでも、教えることはやりがいがあり、こんなにたくさんの人が日本に興味を持っているということが、すごく嬉しかったです。毎回、クラスの後にはみんなでパブに行き、飲みながら日本文化とイギリス文化を互いに教え合っていました。中でも特に印象深かったの



は、なぜ日本人はよく「小さい顔がいい」と言うのか、というある友達の疑問でした。どこからが小さい顔でどれが大きい顔なのか、なぜそれがいいのか、ということについて何時間も全員で話し合うほど盛り上がりました。私自身、小さい顔の方がいいと考えていた方だったため、その質問には何か心に刺さるものがありました。イギリスでは、顔の形という概念はあっても、サイズという考え方はないということを学びました。このように、日本を外から見て考えることによって、良さと悪さを感じることができました。

<留學生活全般を通じて>

帰国した今、心からオックスフォードに留学して良かったと思いますが、留学を決める前は参加するかどうかをとっても迷っていました。理由は、このプログラムが日本の大学生のみの受け入れだったためです。クラスは日本人のみで、一緒に住むフラットメイトも日本人のため、英語力が向上するのか、また現地の友達ができるのかが不安で、この留学費用があるのなら、海外旅行や他の留学プログラムに参加すべきなのかと決断を悩んでいました。私は今回のイギリス留学以外にも、AFSという団体を通じて、高校3年生の時にノルウェーへ10ヶ月間の高校留学していました。その時の大きな後悔として、留学中もシャイなままなかなか本来の自分を出せず、友達をあまり作れなかったということがありました。その後悔を次の留学ではしたくなかったため、一步を踏み切ることがなかなかできませんでした。しかし、先生方や友達に相談する中で、メリットも見えてきました。少人数制クラスでの授業、英語でビジネスが学べる、現地の学生に日本語を教える機会がある、世界的に有名なオックスフォード大学…、総合的に考えて留学を決断しました。

本留学の目標は、できるだけ自分から外に出て、多くの人と友達になることでした。最初の2ヶ月間は積極的になれずに、知り合ったものの一度きりで、その後自分から遊びや食事に誘えないということが続きました。しかし、クラスメイトに段々と友達が増え、楽しそうに遊んでいるのを見ていると、このままではまた同じ後悔をしたままで留学が終わってしまうということに気が付き、2ヶ月目にしてやっと火が付きました。毎週木曜日の日本語レッスンに参加する、オックスフォードで開催されるイベントに行ってみる、連絡を交換していた人に連絡してみる、パーティーがあったら自分から会話の輪に入ってみ

るなどです。簡単ではありませんでしたが、やるしかありませんでした。とても時間がかかりましたが、帰国1ヶ月前になりやっと友達が増え、ご飯やパブに行ったり、友達のカレッジを見せてもらったり、フォーマルディナーに誘ってもらったりと、留学生活の中で一番充実してキラキラした時間を過ごすことができました。留学は勉強も大切ですが、友達を世界中に作るということも同じくらい大切だと感じました。

2017年10月から始まった留学が終わり、2018年3月に無事日本に帰国することができました。修了証書もいただき、少し安心した気持ちと、過ぎてしまった留学生活を寂しく感じる気持ちもあります。4月から新学期が始まるにあたり、思い出に足踏みばかりせず、前に進むよう努力をしていますが、時にはクラスメイトやイギリスにいる友達と連絡を取ったり、留学で学んだことを復習したりもしています。オックスフォード大学ハートフォードカレッジでの約半年間を振り返ると、一瞬で留学が終わってしまったかのように感じます。それだけ毎日が刺激的だったからだと思います。いつかまた必ずイギリスに行こうと考えています。

以上